

オンダ通信

「小井沼眞樹子宣教師と共に歩む会」会報

第9号

共同代表: 松本敏之、大倉一郎
 事務局: 横浜港南台教会 秋吉隆雄
 〒234-0054 横浜市港南区港南台 7-8-29
 Tel 045-833-5323 Fax 045-833-6616
 郵便振替口座番号: 00210-2-97571

ラテンアメリカからの新風

小井沼眞樹子

ローマのバチカンで、教皇選出会議（コンクラーヴェ）が始まると、ブラジルでは生中継でその模様を伝えていた。2日目（3月13日午後）、私はテレビの前でくぎ付けになった。システィーナ礼拝堂の煙突から白い煙があがり、新教皇が決定したことを伝えていた。誰だろう？予想外に早い選出結果に、興味津々で放映を待った。

間もなく、アルゼンチン出身、イエズス会士のホルヘ・マリオ・ベルゴリオ枢機卿（76歳）が新教皇として姿を現した。カトリック教会史上初のラテンアメリカ出身、しかも初めてイエズス会からパパ（Papa=教皇）が誕生したのだ。私はひとり、部屋で小躍りした。

ベルゴリオは自分の教皇名を「フランシスコ」とした。それは徹底した清貧に生き、貧しい人々をこよなく愛し、自然を愛した中世の聖者、アシジのフランシスコの霊性を模範として強く意識している姿勢の表明だと言われる。またイグナチオ・ロヨラと共にイエズス会の創設に関わり、日本にまで来て布教したフランシスコ・ザビエルの宣教精神を受け継ごうとする心意気も感じ取れる名だ。

ベルゴリオの人柄と生活について知る人は、その質素で謙遜なあり方に誰もが好感を抱いているそうだ。

2001年にブエノスアイレス枢機卿に任命されても、贅沢な司教館に住むことを拒み、民間のアパートで暮らして自炊もする、また運転手つきの御用車には乗らず、民衆と同じバスや電車で出かけていたという。

住居に隣接するスラム街に「十数年間、電車と地下鉄を1時間乗り継ぎ、ふん尿の臭いが漂う道路を歩いて通い、ホームレスや外国移民の生活向上に尽力した。

「必要なのは愛と平和だけ」というのが信条で、集会では「枢機卿カルデナル」と呼ばれるのを嫌い、「神父（パドレ）」と呼んでくれと述べるという。

コンクラーヴェによる選出から7日目の3月19日の教皇就任式では「弱者と環境を守ることが、死と破壊に勝

利する方法である」「最も貧しく弱き者を抱擁する」と、教会の役割として社会的弱者の救済と環境保護を強調した。

質素を好むフランシスコは教皇の指輪を金から銀の金メッキに変えた。十字架はそれまで使用してきた鉄の十字架を使用し伝統的に履かれていた赤い靴もやめて従来の黒い靴を履き続けることにした。公開された教皇フランシスコの住居は、コンクラーヴェで枢機卿が宿泊に使用するサン・マルタ館の一室。各国の聖職者などがローマに滞在するときに使用されるほか、観光客用のホテルとしても利用されている。（斜字は「ウィキペディア」より引用）

アルゼンチンのカトリック教会は、ブラジルの教会と異なり、70-80年代の軍事政権に対して積極的に人権擁護を表明せず行動しなかった経緯がある。その一員ということで、新教皇を批判する人々もいることは確かだ。しかし、ベルゴリオは大司教時代に、アルゼンチンのカトリック教会の体質改善に尽力し、その近代化に成功したとも言われている。教義的には伝統を重視し、倫理問題については保守的、妊娠中絶や安楽死は認めず、同性婚についても否定的である。

このような新教皇の登場によって、今後どのようにバチカンが刷新され、キリスト教界に変化が生ずるか、また教皇が世界の平和に対してどう関与し貢献していくのか、世界中の人々が期待し、注目している。

* * * * *

2ヶ月間の休養帰国を終え、6月中旬レシーフェ/オリンダの任地へ戻ります。一粒の水滴のごとき宣教のわざですが、大河の流れの変化を意識しながら、自分に託された奉仕を続けて行きたく思います。

いつも皆さんのお祈りとご支援を感謝しつつ。

訂正（HP上のPDFは訂正済）

先号「ブラジルの宗教人口の推移」の中の「1980年」は誤り。正しくは「1960年から50年間で、カトリック教徒の数は総人口の93.1%から64.6%に減少。」

楽しく習って、明るい未来を！

報告 スエレイジ・シキーノ(コーディネーター)

現在、アルト・ダ・ボンダージ教会の社会活動は、音楽教室から発展して、空手教室、英語教室、子どもたちへの創作教室まで提供し、8歳から36歳まで64名が喜んで参加しています。

***ギター教室：水・木曜日 夜7-9時 14名**



11/04/2013 07:56 PM

***空手教室：水・金曜日 22名 大人気で～す！**



***子どもの創作教室：木曜日 午後3-5時 9名**



18/04/2013 07:32 PM



27/09/2012 04:17 PM

***立て笛教室：**



18/04/2013 03:56 PM



27/09/2012 04:20 PM

子どもたちは遊びながら考えたり、作ったり、表現したり…将来の夢を描けるようになっていきます。

「あらためて小井沼眞樹子宣教師の お働きの意味を考えました」 大倉一郎

四月に一時帰国中の小井沼眞樹子宣教師と久方ぶりにお会いする機会を得た。小井沼宣教師を囲んだ仲間が「ラテンアメリカ・キリスト教ネット」のメンバーだったので、話題はおのずと最近の南米キリスト教事情に及んだ。とくにこの間ラテンアメリカ世界から起こった歴史的と言っていいであろう出来事に話題が集中した。新ローマ教皇フランシスコの誕生と今後の影響に関して語り合った。馴染みの薄い話題と感じる方もあるかも知れないので、以下、いささか解説じみた物言いをお許し願いたい。

ローマ・カトリック教会の前任教皇ベネディクト一六世はヨーロッパ中心の伝統を重んじる保守主義者として知られていた。それ故に危惧された点が具体的に表れたのが同教皇のイスラームに対する偏見と思われる失言の繰り返しだった。余りにヨーロッパ・キリスト教中心の教皇の姿勢だったと思うが、南米のキリスト教徒の中には、既にその種の危惧を予感していた人びとがいたと思われる。次のような事件があったからである。

ベネディクト一六世は教皇就任前にヴァチカン教理省長官ヨゼフ・ラッツィンガーとして南米の解放の神学に警戒的だった。とうとうブラジルの解放の神学者レオナルド・ボフに対して神学的発言を封じる沈黙令を課したことがあった。ボフ神父はその教会論で、貧しい人々への教会の福音的責任を重んじる思想を表明して、貧しい人々の人間の尊厳を擁護し、貧困からの解放と貧しい人々と歩み得るための教会の現代的変革を支持した。当時、ラテンアメリカの圧倒的民衆は貧困に喘いでおり、カトリック、プロテスタントを問わず、福音への誠実な応答をめざしたキリスト教徒が解放の神学に共鳴していた。それだけにボフ神父への懲罰は民衆の間に働くキリスト教徒に深い失望を与えた。ベネディクト一六世はそのような人として記憶されていたのである。

今回、その後継教皇にブエノスアイレス大司教ホルヘ・マリオ・ベルグリオ枢機卿が新たに選出されてフランシスコ教皇となったのである。史上初めての南米大陸出身者で史上初のイエズス会士の教皇だった。さらに注目されたのは、新教皇が貧しい人々への奉仕を重んじ、自らも質素な暮らしをする司牧者として働いてきた人だということであった。神学の立場では解放の神学に一線を画してきた保守性も知られているが、そうであっても貧しい人々を重んじることが司牧の重要な働きであると考え、身を以て実践してきたことは紛れもない事実である。

解放の神学が大切にするのも先ず貧しい人々への具体的な奉仕であり、福音に応える生き方を追求する霊性

である。以上のようなラテンアメリカ・キリスト教の歴史的背景を考慮すれば、南米においてフランシスコ教皇の誕生に、いかに多くの人々の熱い期待と深い関心が注がれるのかは想像に難くない。今後のローマ教会のグローバルな宣教の方向にどのように新教皇の経験と意思が生かされていくだろうか。新教皇の今後に注目をしていくことが大切だと小井沼宣教師を囲んで話題になった次第だった。

ところで、この話題に触発されて、私はあらためて小井沼宣教師の働きを思いめぐらせてみた。小井沼宣教師自身がそのブラジル赴任の最初から、現代の教会がイエス・キリストの生き方と教えに応じて貧しい人々に対する福音的責任を深く自覚し、その自覚にたった宣教をどのように担っていくか、祈り、考えながら、赴任されたということである。その祈りと姿勢をもって、アルト・ダ・ボンダージ教会での現在まで奉仕を続けてこられた。「オリнда通信」などを通じて、その宣教の歩みは私たちのよく知るところである。

小井沼宣教師は、ブラジル社会でも、とくに貧しい中に懸命に生きる人々の歩みと信仰の思いを伝えながら、貧しい人々の交わりの中で自らの信仰の刷新も経験してこられた。その証言を伝えられることで、現代の福音宣教が貧しさに繋がれている人類の広範な人々の尊厳を回復し、教会が福音の光のもとに奉仕の器として刷新されることを祈る、そのような促しを受けとってきた。私は、小井沼宣教師のアルト・ダ・ボンダージ教会での働きの大切な意味の一つはそこにあると信じている。

小井沼宣教師の活動はブラジルの一隅におけるローカルなミッションの遂行であると言えるだろう。しかし、それは先に触れた新教皇がこれまで関わり、今後グローバルな取り組みが期待されているミッションと軌を一にする宣教活動である。現代教会の最も重要なミッションをそれぞれに担っていることは紛れもない。それだけに「人間であるということは、小さい石を積み重ねながら、自分が世界をつくることに協力していると感じることである」。このサン・テグジュペリの寸言を小井沼宣教師の宣教の証言において真実だと感じるのである。そのような視座からあらためて小井沼宣教師の一喜びと共にご苦勞もまた多大な一働きを理解し、支援し、祈り続けていきたいと思う。

眞樹子師の連絡先（通信の読後感を待っています）

住所： _____（省略）_____

Boa Vista, Recife-PE 50050-200 BRASIL

電話： _____（省略）_____

メール： _____（省略）_____

収 入		支 出	
項 目	累 計	項 目	累 計
会費・特別献金	—	支援金	—
利息	—	海外保険	—
		事務費	—
		振込手数料	—
		集会費	—
小 計	—	小 計	—
前年度繰越金	—	次年度繰越(通常)	—
合 計	—	合 計	—

音楽・施設・センター 献金	—	支援金	—
		振込手数料	—
小 計	—	小 計	—
前年度繰越金	—	次年度繰越(音楽他)	—
合 計	—	合 計	—

年会費・特別献金者名 (敬称略・順不同)

氏名、件数は省略

音楽・センター献金者名

氏名、件数は省略

(会計は O.T さんの監査を受け、適正に処理されているとのことのお言葉をいただきました。 会計担当 K.Y)

編集後記 H. Y (横浜港南台教会員)

4 月に真樹子宣教師が日本に帰国された時、横浜港南台教会は恒例のバザーの準備でざわざわしている最中でした。礼拝後、前に立って「少し疲れている。日本語で礼拝説教を聞くとスーッと理解でき気持ちがいい。教会のお友達ととりとめのないおしゃべりがしたい。」と、ちょっと寂しい表情をみせておられました。

6 月第 1 主日の礼拝後、ブラジルへの帰国をひかえて再び前に立ち、「港南台教会の礼拝に出てまるでお母さん

の胸に抱っこされているような気持ちだった。またレシーフェへ帰るが、ポルトガル語の群れの中で人々とともにイエスを証してゆこうという意欲が自然にわいてきている。日本のことをお祈りしているので、皆さまも私の働きをおぼえて祈ってください。」と明るい笑顔でおっしゃいました。公的な仕事をなさらない久しぶりの日本での日々が、どんなに癒しになったかがうかがえたのでした。

祈り。これこそが力なのです。